



○出穂期は ほぼ平年並み の見込みです！(4月中旬頃)

11月中～2月中旬の少雨の影響により、11月播種の分けつは平年並み～やや遅れで進んだが有効茎がほぼ確保されました。12月以降の遅播きは分けつが遅れ茎数がやや少ない傾向で経過しました。その後、2月下旬以降の定期的な雨と急激な気温上昇により生育が進み、茎立ち期は平年並みかやや早い傾向です。

4月2日気象庁発表の1か月予報(4/4～5/3)によると、暖かい空気に覆われやすいため気温は高く特に前半は高い。低気圧や前線の影響を受けやすいため、降水量は多く、日照時間は少ない見込みの予報です。

このため、出穂期は ほぼ平年並み 見込みです。(平年は4月10日頃)

早春は気象変動が激しい!! 品質・収量をも高める麦づくりポイント

ポイント1 開花期に「赤かび病防除」の徹底!!(カビ毒検出麦は出荷停止・廃棄の危険)

(1)防除時期 ⇒ 出穂始めから7～10日後 開花を確認して直ちに薬剤を散布します。
(その後、降雨が継続した場合、開花10日後に追加の散布をします)

(2)防除薬剤 ⇒ トップジンM水和剤(1000～1500倍液)を60～150ℓ/10a

ポイント2 ハナマンテン 第二回目の追肥 (出穂期) でタンパク質向上!!

(1)施肥時期 ⇒ 出穂期(4月中旬～下旬頃)

(2)施用量 ⇒ 窒素成分量 4kg/10a

< 施肥例 > 硫安 20kg/10a 又は 尿素 5～9kg/10a

※「ハナマンテン」はパン用品種のため、タンパク質含量12.5%以上を目指します。

ポイント3 「排水溝の補修」が 収量・品質 を左右します!!

4月以降、大雨が予想されます。湿害による生育不良で収量・品質が決まります。排水溝を補修して、排水路と連結しましょう。

令和 8年産麦作期間の気象図(観測地:さいたま アメダス値)

令和8年3月31日現在

